

## 俳句を味わう

〔確認〕

名前

## やってみよう

俳句は、五七五の三句十七音で表現される定型詩です。俳句は、江戸時代から現代にいたるまで、多くの人々に親しまれている文学です。

俳句には、いくつかの約束事があります。五七五の定型で表現するというのもそうですが、一句の中に季節を表す言葉を入れるということも約束事の一つです。これを季語といいます。

また、「ぞ」「かな」「けり」のよつな「切れ字」といわれる言葉を入れることもあります。これは、感動を強調したり、調子（リズム）を整える効果があります。

A 春風や 鬨志いだきて 丘に立たちます  
高浜 虚子

寒かった冬が過ぎ、待ちに待った春がやってきました。気持ちの良い風も吹いてきて、(a)人物の姿が描かれています。

B 桐一葉 日当りながら 落ちにけり  
高浜 虚子

桐の葉が一枚、美しい(b)の日に照り返されながらゆっくりと落ちていつている様子が描かれています。桐の葉が散っていくそのわずかな時間に、(b)が次第に深まっていく季節の移り変わりが感じられます。

これらの句の作者、高浜虚子は、正岡子規まさはらのかほし規まのもとで俳句の勉強をしました。正岡子規が短歌で唱えた「写生」は、俳句にも同じ影響を与えました。高浜虚子もその一人で、写生を重視しました。

(2) 深く感動する気持ちが表れているのは、  
た。ま。

一 Aの俳句について次の問に答えなさい。

(1) この俳句の季語と季節を書きなさい。

季語

季節

(2) 切れ字を書き抜きなさい。

(3) 文章中の(a)に当てはまる適切な言葉を、次のア～ウの中から一つ選んで記号で書きなさい。

ア 春風を受けながら、未来へのあきらめの気持ちで丘に立っている。

イ 春風を受けながら、さあ今からがんばるぞ、という気持ちで丘に立っている。

ウ けんかをして、いらいらした気持ちで丘に立っている。

二 Bの俳句について次の問に答えなさい。

(1) (b)に当てはまる季節を書きなさい。

どこですか。俳句の中から書き抜きな